

# 茨城大学学報

第273号

平成19年6月～平成19年7月



オープンキャンパス（学部紹介）

## INDEX

- ◆キャンパスクリーン大作戦
- ◆日本フルブライトメモリアル基金米国教育者の訪問
- ◆茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会を開催
- ◆農学部、東京医科大学霞ヶ浦病院と連携協力協定を締結
- ◆体育祭開催
- ◆茨城県教育委員会との連絡協議会
- ◆小宮山宏東京大学総長を講師に迎え講演会を開催
- ◆新任教職員研修会
- ◆茨城大学名誉教授称号授与式
- ◆工学部オープンキャンパスを開催
- ◆農学部オープンキャンパスを開催
- ◆2007茨城大学オープンキャンパス
- ◆三村信男教授、国連シンポジウムで講演

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆キャンパスクリーン大作戦

本学では、環境美化運動の一環として「環境の日」（6月5日）に水戸キャンパスで教職員によるキャンパス構内外の一斉清掃活動を「キャンパスクリーン大作戦」と名付けて実施しました。

始めに菊池学長から環境月間の取組みとして、恒例化し今後も継続して実施してほしいとの挨拶を受け、教職員約100名が参加し、キャンパス内の一斉清掃を実施しました。

また、キャンパス外の周辺の道路のゴミや空き缶等の撤去、除草を行い、地域に開かれた大学として、近隣地域との連帯感を醸成することにもつながりました。



キャンパスの外周道路を清掃する教職員

## ◆日本フルブライトメモリアル基金米国教育者の訪問

去る6月18日（月）に、日米教育委員会 JFMF（日本フルブライトメモリアル基金）の米国教育者が訪問されました。

当日は、学長・教育学部長への表敬訪問に始まり、教育学部副学部長から大学の教員養成に関する役割と現状及び今後の課題などに関する説明があり、その後、質疑応答がありました。

また、最後に、教育学部教員、教育学部学生及び大学院生と3分科会に分かれ、意見交換等が活発に行われました。



挨拶をする 菊池学長



表敬挨拶をする 米国教育者代表

## ◆茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会を開催

平成19年6月25日（月）12時から茨城大学同窓会連合会の事業の1つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として、茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会役員との第1回目の懇談会を茨城大学事務局会議室において開催しました。

大学側からは国立大学が置かれている厳しい現況、研究推進方針や学外研究機関との連携推進、入学生の確保のための取組みや学生支援の強化についての報告があり、引き続き、和やかな雰囲気の中で意見交換をいたしました。同窓会連合会側からは、J-PARCなど大学が取り組む研究課題に対する質問や卒業生名簿の扱いなどに関する要望が出されました。



財政諮問会議等による競争原理の導入や大学の努力と成果による運営交付金の配分など地方国立大学を巡る状況は厳しく、地方国立大学の存在や役割は地域の発展のためには不可欠であるとの認識のもと茨城大学の今後の発展のためにも「連携及び協力」の体制を確立する必要性を確認しあうことが出来ました。



菊池学長を囲む懇談会参加者

## ◆農学部、東京医科大学霞ヶ浦病院と連携協力協定を締結

農学部は、去る6月28日に隣接して立地する東京医科大学霞ヶ浦病院と連携協力協定を締結しました。

阿見キャンパスで行われた締結式では、本学から菊池龍三郎学長、長谷川正文事務局長、東京医科大学から伊東 洋理事長、菊池俊昭事務局長をはじめ、多数の関係者が出席し、松田智明農学部長と松岡 健霞ヶ浦病院長が協定書を取り交わしました。

菊池学長及び伊東理事長から祝辞が述べられた後、松田農学部長から、「食、生命、環境をキーワードにバイオテクノロジーなどで、両者の関係を発展させていきたい。」松岡病院長から、「“食物連鎖反応の究明”、“人と食物”、“健康と食物”をテーマとして、食物に含まれる成分と人間の健康に関し、これまで培った基礎データを共に研究し、地域の活性化にもつなげたい。」とそれぞれの抱負が述べられた。

式後の昼食パーティーでは、参加者が相互に今後の意気込み等を語るなど、和やかなうちに進行し、最後に、長谷川事務局長から、「連携協力により、研究コンソーシアムを形成して、研究の成果を阿見町から世界に発信できることを期待したい。」と希望が述べられ、終始盛会のうちに終了しました。



松田智明農学部長と松岡 健霞ヶ浦病院長

## ◆体育祭開催

第58回体育祭が、6月30日（土）に水戸キャンパス第2グラウンドで開催されました。この体育祭は、教育学部学校教育教員養成課程体育専攻の学生を中心とした体育祭実行委員会の企画によって毎年行われています。

競技は、サークル対抗リレー、借り人競走、玉入れ、校内マラソンなど、アイディアとバラエティに富んだ内容の全8種目。体育系サークルを中心に10サークル、総数140名以上の参加学生が紅白に分かれ熱戦を繰り広げました。

閉会式では、優勝した紅組と MVP に選ばれた学生に賞状とカップ等が授与された後、白井大会会長（副学長・教育担当）、松坂審判長（教育学部教授・保健体育教室主任）、吉田大会顧問（学務部長）から講評をいただきました。

最後は、男子学生の応援団長による参加学生の健闘を称える力強いエールと、参加者全員による校歌斉唱で幕を閉じました。



校内を丸ごとコースにした「茨大マラソン」の様子

### ◆茨城県教育委員会との連絡協議会

教育学部では、去る7月6日（金）に「平成19年度茨城県教育委員会と茨城大学教育学部との連絡協議会」を大学会館において開催しました。

同協議会は、地域の教育及び教員養成に関わる諸問題並びに教員の資質向上等を図ることを目的として、平成12年度に設置されたものです。

教育委員会側から稲葉教育長、福田教育次長、中原教育次長、各課長等13名、大学側は田代教育学部長、小野副学部長、尾崎副学部長、各種委員会委員長など17名が出席し、①教育委員会と附属学校との人事交流について、②教員養成の充実について等に活発な意見交換が行われ、相互の連携協力の一層の推進を図り、今後、同協議会を更に充実させることを確認しました。



## ◆新任教職員研修会

本学では、採用または異動により本学に迎えた新任の教職員34名を対象に、国立大学法人の諸制度、本学の概要および当面の諸課題等を研修し、本学の運営について理解を深めることを目的として、7月9日（月）、10日（火）の2日間にわたり新任教職員研修会を開催しました。

研修会は、菊池学長の「大学運営のポイント、大学の主な課題」の講話に始まり、「大学改革の方向性と学術面の課題」、「高等教育の課題」、「茨城大学のネットワークと情報セキュリティ」、「教養教育の実施体制と大学教育センター」、「公的研究費の不正防止等について」、「本学における大学評価および教員評価の状況」、「本学の研究推進体制」、「本学の就業規則等について」、「本学の地域連携推進体制」、「情報公開と個人情報保護について」、「国立大学法人の財務制度」及び「本学の賃金制度」、「ハラスメントの防止について」など多岐にわたるカリキュラムを役員および部課長等が講師となり、本学に関する理解を深める講義を行いました。

研修会の締めは、各講師と研修受講者により「総括質疑」が行われ、活発な質疑応答がありました。



大学の運営・課題について説明を行う菊池学長



## ◆小宮山宏東京大学総長を講師に迎え講演会を開催

去る7月6日（金）、東京大学総長 小宮山宏 先生を講師に迎え、「課題先進国」日本の役割 ～大学が開く地球の未来像～ と題した講演会を、茨城大学において開催しました。

水戸キャンパスのメイン会場では学長、役員、評議員等を始め、教職員180名、また、VCS（バーチャルキャンパスシステム）を利用した教室等では学生280名、キャンパスが異なる日立・阿見キャンパスでは、約60名が出席し、立ち見もできる熱い雰囲気の中で総数520名余が聴講しました。

小宮山先生からは、20世紀は物質生産の膨張の時代であり、知識も急激に膨張したという基本認識に基づいて、文明の持続という人類最大の課題のために大きなビジョンを持つことの重要性が、具体的な例をあげながら述べられました。また、日本が「課題先進国」として国際的に大きな役割を負っており、さらに、「課題解決先進国」になるために知の構造化を担う大学の役割が重要であることを熱心に説明されました。とくに、若い学生に向けて、積極的に議論することや物事を広い視野から見て自分で考えることなどを呼びかけられ、講演予定時間を超えて、刺激的で熱のこもった講演がありました。

出席者は、小宮山先生の講演を引き込まれるように聴講し、自らの教育・研究や大学本来の役割について改めて大きな示唆を受け、将来に向けて自信を持つなど、非常に有意義な講演会となりました。



理学部インタビュースタジオ（メイン会場） と 講演される小宮山総長

### ◆茨城大学名誉教授称号授与式

平成19年6月21日（木）開催の教育研究評議会において、平成18年度茨城大学名誉教授として、下記の先生方16名が決定され、7月12日（木）事務局会議室に於いて関係者ご列席のもと、名誉教授称号授与式が執り行われました。

#### 記

元官職名	氏名	元官職名	氏名
人文学部 教授	佐藤 恵一	工学部 教授	高橋 雅彦
人文学部 教授	笹倉 貞夫	工学部 教授	戸恒 明
人文学部 教授	茂木 雅博	工学部 教授	内藤 久仁茂
教育学部 教授	長澤 邦紘	工学部 教授	岡田 養二
教育学部 教授	酒井 はるみ	工学部 教授	奈良 宏一
教育学部 教授	服部 恒明	農学部 教授	正木 武治
教育学部 教授	大谷 尚子	農学部 教授	森泉 昭治
理学部 教授	金子 正夫	生涯学習教育研究センター 教授	藤平 誠二



称号記を授与された名誉教授の方々

## ◆工学部オープンキャンパスを開催

工学部では、平成19年7月21日（土）に、日立キャンパスでオープンキャンパスを開催しました。

午前は「学部紹介と入試説明」、午後は「各学科に分かれての学科説明会および施設見学」を2回に分けて実施することにより、内容に富んだ企画となりました。

当日は、生憎の悪天候にも関わらず、約450名の高校生・保護者の方々が訪問をうけ、それぞれの企画に積極的に参加されました。

特に、学科説明会および施設見学では、本学教員および学生との交流が盛んに行われ、参加いただいた高校生の反響は、とても大きいものでした。



説明会を熱い視線で聞き入る高校生

## ◆農学部でオープンキャンパスを開催

農学部では、7月22日（日）阿見キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催しました。これは、農学部が水戸キャンパスから離れており、学部独自の企画として、阿見キャンパスにおいて、農学部を紹介するために毎年開催しているものです。

今年は、広報委員会が中心となり、ホームページの充実、リーフレットの作成・配付、高校訪問、ポスターの電車内掲示などPR活動を行ったこともあり、当日は、雨模様にもかかわらず、昨年度比2倍となる約450名の高校生、保護者の訪問がありました。

内容は、昨年度同様、入試説明、学部紹介、在学生による学生生活の説明、保護者との懇談会、学校教員との懇談会、公開模擬授業、施設・研究室見学、入試相談コーナーのほか、新企画として学生による研究紹介など、盛りだくさんの企画を準備しました。

参加者は、積極的に各企画に参加し、人気の「研究室訪問」では、公開中の研究室で実験体験を通じて、大学生との交流を持つ貴重な体験が得る機会となりました。

また、「保護者との懇談会」では、昨年度に比べて2倍ほど出席者数が増え、「奨学金の受付」、「霞光寮の選考基準」について質問があり、保護者の学生生活に関する関心を伺い知ることができました。「学校教員との懇談会」では、11高校の先生と懇談を行い、今年の入試に関して質問、意見交換を行いました。



オープンキャンパスの参加者受付のようす

## ◆2007茨城大学オープンキャンパス

本学では、7月28日（土）にオープンキャンパスを開催しました。22回目の開催となる今年は、「水戸キャンパス」に加え「茨城県武道館」の二会場での実施となりましたが、昨年を千数百名も上回る約5,400名を超える高校生及び保護者を迎えることができました。

当日は、まだ梅雨明け前でしたが朝から真夏の天気恵まれ、9時のオープン前から続々と来場があり、菊池学長をはじめ役員が正門で来学者を出迎え、入学案内及び入試関係各種資料を手渡し、来学を歓迎しました。

二会場に分かれたのにもかかわらず、学部紹介、公開授業、保護者説明会をはじめ、入試相談、学園生活あるいは就職に関する各種相談及び情報提供コーナー、入学試験の過去問題開示コーナーなど、どの会場どの教室も定員を超える参加がありました。

今年は、職員スタッフに加え約100名の学生のサポートをうけ、汗をぬぐいながらキャンパスガイドを行いました。また、近隣の方々のご協力をいただき、終了時間の15時までの間キャンパスは、高校生の熱気に包まれ、盛況のうち無事終了することができました。



高校生を迎える菊池学長と役員

### ◆三村信男教授、国連シンポジウムで講演

三村信男教授（地球変動適応科学研究機関（ICAS）機関長）は、7月31日にニューヨークの国連本部で開かれたシンポジウムで講演しました。国連では、7月31日、8月1日の2日間、気候変動問題に関する国連総会を開催しましたが、この機会に開かれたサイド・イベント「気候変動—人間の安全保障の観点から」（国連人道問題調整部、日本、メキシコ主催）に招かれて、「気候変動の影響と適応策」と題して講演したものです（写真）。

このシンポジウムには、各国や国際機関代表など100名以上が参加し、三村教授の他に人道問題調整部、国連開発計画の講師による講演と討論が行われました。講演の後に、途上国における開発と適応策の関係、環境難民への対応、膨大な必要資金の負担などをめぐって時間を越えて熱心な討論が行われました。国連が総会で気候変動問題を議論するのは初めてですが、9月には閣僚レベルの討議が行われるなど、温暖化抑制に向けて国際的な動きが加速しています。



国連本部



三村教授